

善福院釈迦堂(海南市)

ここが和歌山県海南市に所在する善福院/その釈迦堂が鎌倉時代後期の建立で禅宗様建築となっており、国宝に指定されている



釈迦堂前の階段/左手にこの町の案内板が立っている



これが善福院釈迦堂/方三間の一重裳階付きで屋根は寄棟造となっている/右手に説明板が立っている/南東側から見たところ



国宝善福院釈迦堂

指定年月日 昭和二十八年三月三十一日

建保二年（一一二四）、僧栄西が紀州を訪ねこの地に寺を建て宝遊山広福禪寺と名付けた。戦国時代に領主・加茂左近の菩提寺となって釈迦堂を本堂として、梅田寺、了東院、吉祥院、観音院、善福院などの多数の塔頭が立ち並び禅宗寺院の景観を呈していた。

同寺は、もとは禅宗で天正のはじめ真言に転宗、高野山の援護のもとに、文禄二年（一五九四）に伽藍堂舎の修復、子院の整備が行われ、寛文年間に、天海僧正の法孫憲海僧正の支配下になるに及んで現在の天台宗に変わった。明治四十四年に解体修理をうけて、ほぼ建立当時の姿に復原されたものである。

釈迦堂は、桁行三間・梁間三間、もこし付きで、寄棟造り、本瓦葺、禅宗様式の仏殿で嘉暦二年（一一三二）の建立と考えられている。正面の中央三間には、棧唐戸を入れ、内陣の正面後方に高い須弥壇を設け内部中央の上部は鏡天井、床は瓦敷で、そそり立つ内部空間を造りだしている。現在の禅宗様建築に較べて、この建物は木割りが大きく雄大な気風があります。

平成六年三月一日

和歌山県教育委員会
下津町教育委員会
宝遊山善福院

木太く(木割りが大きい)がっしりとした感じで雄大な気風があると記されている

南側正面/3間とも禅宗様棧唐戸/扉の軸受けは藁座となっている/裳階の組物は出三斗、中備は平三斗



堂内/須弥壇上部はドーム状となっており、その天井は装飾の無い一枚板の鏡天井となっている





土間は瓦が敷いてある/礎石の上に柱が立ち、天井板は張られずに梁がそのまま表れている



欄間は間隔の開いた弓欄間となってガラスが入っているが、後世に改造されたものと思われ、元々は間にもう一本入っていたようだ



組物は禅宗様二手先の詰組となっている



壁は豎板壁で禪宗様独特の花頭窓は無い/垂木も平行垂木となっている



尾垂木の先は反り上がった鎧となっている/軒丸瓦にはかつての寺名であった「廣福禅寺」の銘がある



礎石の上に礎盤が入り、粽のある柱が立つ



東側から見たところ



善福院



下津町観光案内之図



← 善福院

北東側から見たところ



北側(裏側)から見たところ



北西側から見たところ/鎌倉時代の禅宗様建築はこの善福院釈迦堂と山口県下関市の功山寺仏殿しか現存していないという



参考ホームページ

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/014/>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Wk05.html>

<http://www.city.kainan.lg.jp/kanko/bunkazai/zenpukuinshakado.html>

<http://plaza.rakuten.co.jp/arida4425nt/diary/201402240000/>

<http://ameblo.jp/straight-hope/entry-11781503432.html>

<http://shirokokuho.shakunage.net/zenpukuk1.html>

<http://nkmrgrt.blog.fc2.com/blog-entry-2.html>

<http://www.eonet.ne.jp/~bird-etc/treasure-zenpukuinsyakadou.html>

http://www.rekitabi.sakura.ne.jp/H19/191125wakayama/05zenpukuin_syakadou.html

